

目次

■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報	落ち着きをみせる粉乳相場	p. 2-3
■ バター情報	歴史的高値、欧州在庫は記録的低水準	p. 3-4
■ ホエイ情報	米国産、欧州産 依然として高値圏も一服感	p. 5
■ カゼイン情報	欧州増産の流れ、相場への影響も	p. 5-6
■ 乳糖情報	米国産 好調な生産を維持 相場は横ばいに	p. 6-7
■ チーズ情報	米国チーズ状況	p. 7
	ドイツの輸出量	p. 7
	英国チーズ市況	p. 7
	インドの乳製品市況	p. 7
	カナダの新乳価導入による米国への影響	p. 7-8
	米国 CME(シカゴ)相場	p. 8-9
■ 国内情報	減産傾向続く 夏場から年末の生乳、脱脂粉乳不足を不安視-	p. 9-10
■ アムステルダム駐在員情報	Unilever 社 マーガリン事業を売却	p. 10
	EU 脱脂粉乳介入在庫への持ち込み始動	p. 11
	Danone - Whitewave Foods の買収を米当局が承認	p. 11
■ メルボルン駐在員情報	WCB 社 乳価引き上げ	p. 11
	豪州 バター不足	p. 12
	豪州生乳生産量 ラボバンクの予想	p. 12
■ 米国駐在員情報	3月の生乳生産量	p. 12
	2017年第1四半期の全米生乳生産量	p. 12-13
	2月の米国産チーズ、脱脂粉乳の輸出量	p. 13
	2月のバター、チーズ、NDM/SMP の生産量	p. 13
	2月のホエイパウダー、WPC、WPI の生産量、輸出量、在庫量	p. 13-14
■ 主要生産国の現行乳価		p. 14
■ 出典		p. 15

■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報

■ 落ち着きをみせる粉乳相場

オセアニアは乾乳期であるため、供給が限られる季節である。一方で、欧州及び米国の生乳生産量は比較的好調に推移しており、国際市場からの引き合いは同地域へと集中している。価格面でも欧州産、米国産脱脂粉乳が国際市場において競争力を有している。オセアニア産も供給余力が限られるものの直近1か月で欧州産、米国産に近い価格レベルまで下がってきており、両生産地との値差は小さくなっている。全粉乳相場は、直近1か月で欧州産が弱含みにて推移しており、オセアニア産と同等の価格となっている。

欧州

欧州は生乳生産が増加する季節に入った。しかしながら、非常に好調であった昨年の生乳生産量には及ばず、2017年1月～3月のドイツ生乳生産量は前年同時期比2.8%減少、フランスでは0.4%の減少となっている。乳価が徐々に上がってきており、生産者にとっては乳牛飼育頭数を増やしたり、サプリメントを投与したりしても十分に利益を得られる乳価レベルにまで回復すると予想されるため、今後欧州の生乳生産量は少しずつ増加していくと予想する関係者が多い。

欧州産脱脂粉乳相場は横ばいかやや弱含みにて推移している。EU域内や域外からの乳脂肪需要が非常に強いいため、副産物となる脱脂粉乳の製造が安定的に行われている。その一方で脱脂粉乳に対する国際市場からの需要はそこまで強くないため、各サプライヤーともに在庫は潤沢である。

欧州産全粉乳相場は弱含みにて推移している。オセアニア産と比較すると高値で推移していたが、直近1か月でオセアニア産と同じ価格レベルまで下がってきている。欧州の全粉乳製造者は供給余力があるため、販売拡大をもちろみ、積極的な動きを見せている。現在のオセアニアの状況を勘案すると、今後しばらくは欧州産全粉乳へ需要が流れていく可能性が高い。

オセアニア

乾乳期の豪州は2月に天候不順が追い打ちをかける形で、前年同月比較、生乳生産量は大きく減少している。今シーズン(2016年7月～2017年6月)の生乳生産は昨シーズンと比較すると7%減少となる見込みである。

ニュージーランド(NZ)の生乳生産量も豪州同様、乾乳期にある。4月にはサイクロンに見舞われており、北島を中心としてNZの生乳生産量に影響がみられる。

オセアニア産脱脂粉乳相場は弱含みにて推移しており、欧州産、米国産脱脂粉乳との値差が小さくなりつつある。それでもまだ欧州産、米国産との価格に開きがあるため、オセアニア産に対する需要は弱い。豪州における今シーズンの脱脂粉乳生産量は昨シーズン比較、11%減少、輸出量は21%減少となる見込みである。4月18日に行われたGDTの脱脂粉乳平均価格はUSD2,044/MT FAS(本船船側渡し価格)となっており、3月21日のUSD1,948/MTと比較すると4.9%の値上げとなっているが、オセアニア産脱脂粉乳、特に豪州産脱脂粉乳はGDTと連動して相場が上下していない印象を受ける。これは各生産者のプロダクトミックスや損益分岐点によるものと推測される。

オセアニア産全粉乳は若干強含みにて推移している。現在の国際相場において、全粉乳が最も利益率の低い商品であるため、豪州では全粉乳の生産意欲がそがれて供給量が絞られている。4月のサイクロン被害の影響も重なり、今後NZ産全粉乳の供給が厳しくなると考えた需要者の間には先行きひっ迫感が生じ、全粉乳相場を押し上げたものとする。4月18日に行われたGDTの全粉乳平均価格はUSD2,998/MT FASとなっており、3月21日のUSD2,855/MTと比較すると5.0%の値上げとなっている。

米国

米国の生乳生産量は先月に引き続き比較的好調に推移しており、2017年3月の生乳生産量は前年同月比1.7%の増加となった。米国の乳価は過去5年の平均乳価と比較すると、10～15%程度高い価格で設定されている。また飼料価格も低値で推移していることから、酪農家の生産意欲は高いと考えられるため、引き続き生乳生産は好調に推移する可能性が高いと考える。米国産脱脂粉乳価格は国際市場を牽引している欧州産と同価格レベルにて推移してお

り、供給余力もある。

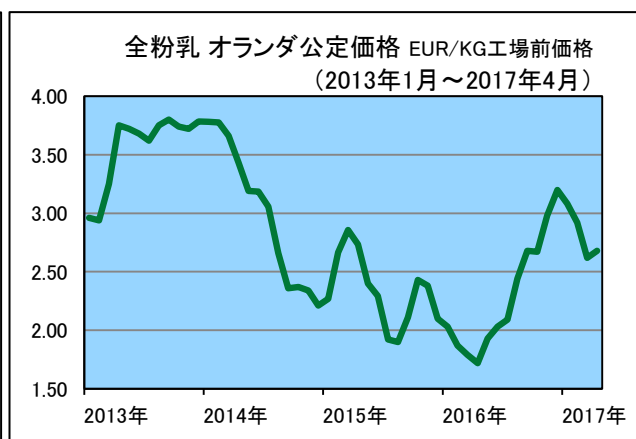
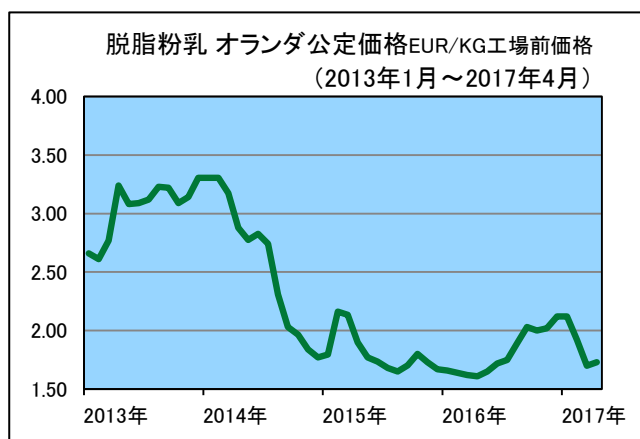
今後の見通し

欧州の生乳生産量は非常に好調であった 2016 年には及ばないものの、比較的順調に推移しており、米国も同様に好調に推移しているため、脱脂粉乳、全粉乳ともに十分に需要を賄える数量の製造は行われている。特に脱脂粉乳については、国際市場からの脂肪需要が非常に強いことを受け、今後もバターやクリーム製造時の副産物である脱脂粉乳の製造が引き続き安定的に行われていくことが予想される。そのため、脱脂粉乳については、しばらくは横ばい、または若干の弱含みにて推移していくことが予想される。

一方で、中国、中東・北アフリカ、東南アジアからの需要が徐々に強くなっており、米国についてはメキシコからの需要も強くなっているため、今後需要と供給のバランスが崩れるほどの特需が発生した場合、急激に相場が反転することになるが、現時点ではその可能性は低いと思われる。短期的には4月に発生しているNZのサイクロンによりオセアニア産粉乳の供給力に影響が出る可能性が高く、一時的に価格が上昇する可能性が考えられる。

現在の粉乳取引価格

EU産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,000 – 2,400/MT CFR ASIAN PORTS
EU産全粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 3,400 – 3,800/MT CFR ASIAN PORTS
オセアニア産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,200 – 2,600/MT CFR ASIAN PORTS
オセアニア産全粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 3,400 – 3,800/MT CFR ASIAN PORTS
米国産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,050 – 2,450/MT CFR ASIAN PORTS



<鷹井>

■ バター情報

歴史的な高値、欧州在庫は記録的低水準

欧州

4月の欧州バター相場は引き続き高値圏に張り付いた。EU主要28か国における2017年2月時点(累計2か月)のバター製造量は前年比で3.7%減であり前月よりも減少幅が大きくなった。国別にみるとバター主要生産国の中ではオランダが前年比18.1%減と最も大きく、フランスも8.6%減と減少している。

欧州のバター在庫量は記録的に低い水準にある。生乳生産量は今後数か月緩やかに回復すると見られるものの、回復増加分の生乳も現時点で最も採算性の良いチーズ生産に振り向けられると見込まれているため、バター価格は引き続き高値安定と予想、下げの要素が見当たらない。

2017年2月末のPSA(民間補助在庫)バター在庫量は、8,350トンと前月比47.5%減となった。主な内訳はオランダ4,634トン、フランス1,331トンであった。

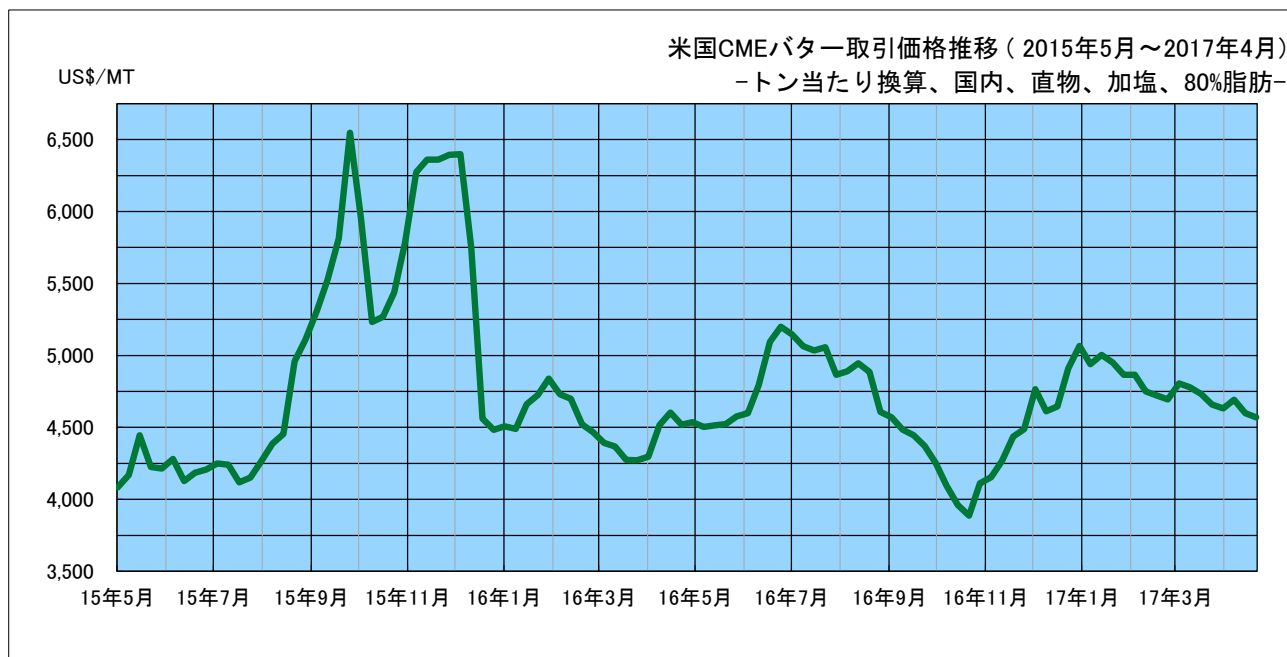
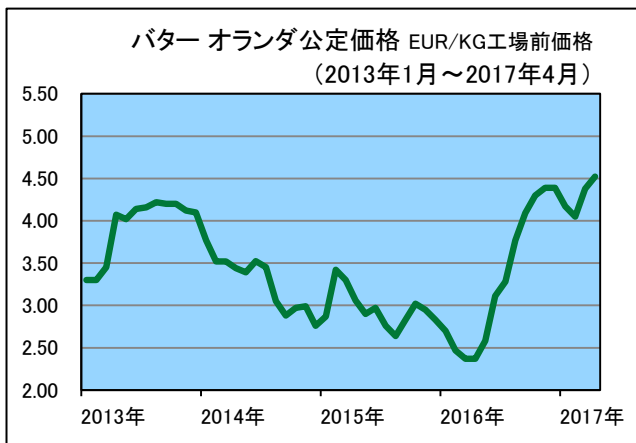
オセアニア

オセアニアのバター相場も引き続き堅調に推移している。豪州の生乳生産量は2017年1月時点(累計7か月)で前年比8.4%減、製品別にみると、チーズ生産量は前年比±0%と昨年と同等の生産量まで回復した一方、バター製造量は-14.6%減と引き続き前年比大幅に減少している。

4月のGDTオークションは、1回目のAMF平均価格がUSD5,936/MT FASと前回(2017年3月21日)比2.4%増、バター平均価格はUSD4,751/MTで前环比32%減、2回目の平均価格はAMFがUSD5,930/MTで前环比0.1%減、バターはUSD4,892/MTで3.0%増であった。

米国

4月の米国バター相場も堅調に推移した。米国でのバター生産量は増えており、2017年2月末時点での在庫量は前月比21.8%増と大幅に増えている。一方で、潜在的な乳脂肪需要により今後更に値段が上がるとの見方もあり、価格は高値安定にて推移している。また一部サプライヤーからは米国内でのバター需要が強くなり2017年第2四半期積み売りが売り切れという話も聞こえてきており、引き続き米国産バターは、多少の生産増があっても国内需要増に吸い込まれている模様で近々の国際市場への再登場は難しそうだが、世界的に底の浅い乳製品貿易市場ゆえ今後も無視は出来ない。



2017年4月のバター取引価格

(換算レート EUR/USD1.09)

欧州産バター価格	: USD5,300 – USD5,600/MT CFR ASIAN PORTS
NZ産バター価格	: USD4,900 – USD5,200/MT CFR ASIAN PORTS
豪州産バター価格	: USD5,200 – USD5,500/MT CFR ASIAN PORTS
米国産バター(無塩 82%脂肪)価格	: USD5,300 – USD5,600/MT CFR ASIAN PORTS

<吉田>

■ ホエイ情報

■ 米国産、欧州産 依然として高値圏も一服感

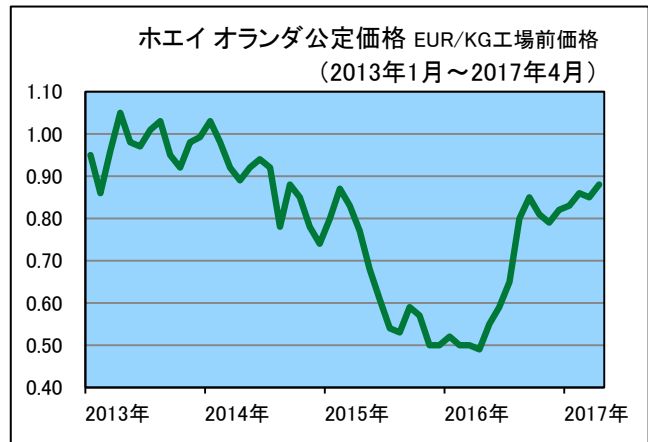
米国産ホエイパウダーの相場は年初より堅調に推移していたが、4月下旬の相場では若干の弱含みにて推移している。中国を筆頭に旺盛な需要に支えられ、USDA(米国農務省)によれば、米国産ホエイパウダーの価格は3月末に前週対比3.91%増のUSD1,157/MT FOB(本船甲板渡し価格)まで上がったが、4月には軟調に転じUSD1,146/MTと安定的に推移している。

2017年2月の米国産ホエイパウダーの生産量は3万4千トンと、前年比で3.1%増となる見込みである。前年比で生産量は増加しているが、輸出量も1万5千トンと前年比12%増加している。製造者により在庫のポジションは異なるが、スポットの契約も見られる等、適正在庫に戻りつつあるようだ。相場の軟化をにらんで買い控えをしているユーザーもいるようであるが、現状急激な相場変化はないと考える。

欧州産ホエイパウダーの相場は若干の弱含みから安定して推移している。需要は底固いものの、年初来の高値堅調の動きは脱し、高値圏の中にあっても一服感が見られる。各製造者に在庫逼迫感はなく、適正水準を保っている。スポット的動きではあるが、欧州製造者の中には高値圏の内に売り抜きをもくろむところもあるようだ。欧州内でのホエイパウダー需要は安定しているため、今後のアジア向けの需要及び欧州の生産動向を注視したい。

米国産WPC-34の相場は高値圏にて安定的に推移している。引き続き高タンパクのWPCの需要が堅調なため、在庫は非常に逼迫している模様である。WPC-34の需要者の中には高値、供給確保の問題から既に脱脂粉乳/NFDMに移行した者も多い。WPC-34の製造者の中には、同品目の契約数量を制限している者もいる。直近の手当てに関しては、価格にプレミアムをつけなければ成約となりにくい地合いとなっている。2月末時点でのWPC(蛋白含有量25~49.9%)の在庫量は9,800トン、前年対比25.9%減の大幅減となっている。主産国の米国のWPC-34の供給に逼迫感があるため、今後の需給動向に関しては十分な注視が必要がある。

<今野>



■ カゼイン情報

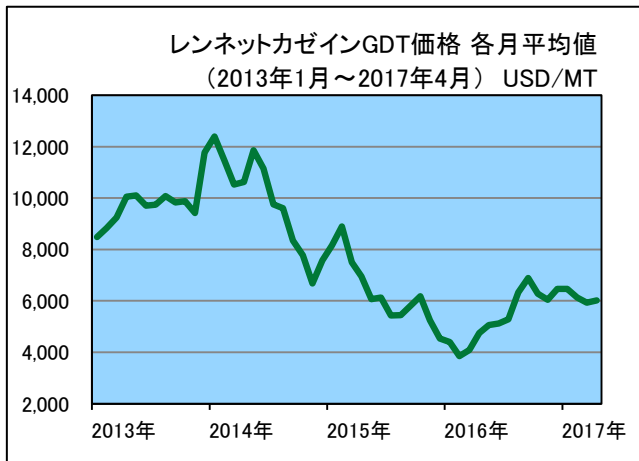
■ 欧州増産の流れ、相場への影響も

カゼイン相場は、横ばい或いは若干の強含みで推移した。供給面では、採算性の問題でカゼインの生産量を減らしていた欧州の一部メーカーでは、脱脂粉乳相場の下落を受けて、カゼインの生産へ再シフトする動きが出始めた。オセアニアに関しては、ニュージーランドの生乳生産量の落ち込みが予想ほどひどくなかったものの、季節的な要因もありカゼイン生産は大きく増えてはいない。

需要に関しては、早めの手当てを進めるユーザーが目立ち、一部では先々までの交渉が始まっていることから、欧州での供給減も影響し結果として相場は横ばい或

レンネットカゼイン GDT 過去3カ月の落札価格

入札日	カゼイン(単位:MT)
2017年2月7日	USD 6,445
2017年2月21日	USD 6,135
2017年3月7日	USD 5,678
2017年3月21日	USD 5,927
2017年4月4日	USD 6,260
2017年4月18日	USD 6,020



いは若干強含みにて推移している。来月以降オセアニアでは下半期の価格交渉が行われることから、マーケット状況を様子見している動きもみられる。

今後は脱脂粉乳の相場低迷により、欧州では脱脂粉乳からカゼインへ生産を戻す動きが増える可能性があり、供給増が予想される。また、先々オセアニアの供給が増えるシーズンになってくることを加味すると、今後のカゼイン相場は大幅な上げは考えにくく、横ばいまたは強含みな状況から徐々に横ばいまたは弱含みへ微妙に状況が変わっていくと考えられる。

<作田>

■ 乳糖情報

■ 米国产 好調な生産を維持 相場は横ばいに

欧州

欧州乳糖相場は、横ばいから緩やかに上昇している。生乳生産量が増加する季節に入った上に、EU 介入在庫の影響で脱脂粉乳とバターのプロダクトミックスからチーズ生産へシフトしているため、乳糖生産量も安定している。一方、需要面では域内、中国向け育児粉乳向けが引き続き旺盛で、半年以上の長期契約をしている先も多いため、タイト感が続いている。一部サプライヤーでは第3四半期は売り切れで、第4四半期の引き合いを始めている模様である。

今後については、5月から6月にかけて生乳生産量のピークを向かえるため、チーズ、原料ホエイ、乳糖の生産も増加することが予想される。乳糖の主要な需要のうち、蛋白調整用途が依然として低調に推移していることから育児粉乳向け需要が旺盛と言えども大幅な価格上昇は考えにくい。

米国

米国产乳糖相場も、横ばいから緩やかに上昇している。2月の全米生乳生産量は昨年同月比2.5%増加しており、チーズ生産量も同月比2.1%と好調を維持している。WPC-34の生産量が同月比8.8%減少している一方で、高タンパクなWPIの生産量は増加しており、乳糖生産量も好調を維持している。需要面では、中国向け育児粉乳用途の引き合いが旺盛で、在庫量は前年同月比8%減少した。ただ、年末の最需要期の終わった製菓用途とオセアニア産脱脂粉乳向け蛋白調整用途は落ち着きを見せているため、需要と供給の均衡が取れた状態に近づいてきている。

今後については、オセアニアの生乳生産がピークを過ぎ脱脂粉乳の蛋白調整用途も緩んでおり、米国内製菓用

国別乳糖輸入量:3月時点の累計(単位:トン)

	2016年	2017年	(%)
オランダ	1,651	2,122	29
フランス	336	258	-23
ドイツ	2,987	3,565	19
カナダ	580	767	32
米国	11,388	11,354	-0.3
豪州	0	0	-
ニュージーランド	786	658	-16
その他	273	534	96
合計	18,001	19,258	7

米国からの乳糖輸出量(2017年1月～2月)

1. 中国	9,756 トン
2. メキシコ	8,115 トン
3. 日本	7,511 トン
4. ニュージーランド	5,403 トン
5. シンガポール	3,757 トン
6. インドネシア	3,224 トン
7. インド	2,155 トン
輸出量総計	55,131 トン

米国の乳糖生産量と在庫量(2017年2月)

乳糖生産量	38,419 トン	前年比 1%増
月末在庫	51,347 トン	前年比 8%減

途も落ち着いていることから、需要と供給の均衡が取れた状態が続き、緩やかに上昇した後、横ばいに推移すると予想する。

<真野>

■ チーズ情報

■ 米国チーズ状況

Daily Dairy Report 4月24日号によると、2017年3月末の米国内のナチュラルチーズ在庫量は約58万7,000トンで前年同月比で約8.5%増となった。前月比でも約3%の増加となり、国内在庫量は高いレベルで推移している。

米国内の需要は堅調であるものの、在庫量も潤沢でチェダーチーズのCME現物相場(現地工場からの庫前渡し条件)は軟調傾向が続いている。このため、輸出数量も大きく伸びており、2017年2月には約2万5,700トンのチーズが輸出されている。この数字は前年同月比で約12%増加しており、また、前月比で約29%増となっている。主な輸出先は韓国及び中国を含むアジア諸国であった。

例年であれば米国内の夏季需要により、5~6月を目安にCME現物相場が上昇する傾向が強いが、仮に国際競争力が失われるレベルまでに価格上昇した場合はCWT(輸出助成金)も増額になる可能性がある。

CMEの相場動向とCWTの輸出助成金の上げ幅によっては日本への輸出価格に大きな影響を及ぼすことも考えられる為、他産地(欧州、豪州)の動向にも留意しつつ、相場状況を見守っていきたい。

■ ドイツの輸出量

2016年ドイツのチーズ輸出量は過去最高を記録し、2015年比0.7%増の118万トンであった。EU域外への輸出量は18.5%増加で、代表的な向け先はスイス、日本、米国及び韓国であった。一方、EU域内への輸出量は1.2%の減少で、オランダが-5.3%、英国が-2.3%であった。

■ 英国チーズ市況

英国農業園芸開発公社によると英国の2016年のチーズ生産量は前年比0.8%の減少で43万1千トンであった。同年の英国におけるチーズ輸出量は16万418トンで7.2%増であったと英国歳入税関庁は発表している。種類別の輸出量はチェダーが3.5%増で75,210トン、向け先別ではEU域内向けは2%減、EU域外向けは20%増であった。

一方、同年のチェダー輸入量は5%減で9万6,567トン。アイルランドからの輸入量は12%の減少であった。スペシャルティチーズ(イタリア産やフランス産等)は37万2,250トンで1.5%の減少であった。フランスからの輸入量は19%減少、デンマークからの輸入量は15%の増加であった。

輸入量の減少は英ポンド安による輸入品の競争力の低下が原因と考えられる。逆に輸出は競争力が増したことで増加したと考えられるであろう。生産減、輸入減、輸出増で2016年だけを切り取るとチーズが不足していることになる。この分は2015年に生産された国内在庫で補われたようである。

■ インドの乳製品市況

インドの情報誌Dairy Indiaは同国における冷蔵配送のインフラ成長により2020年までに乳製品の生産量が大きく成長する可能性があるとした。現在同国では数多くの酪農協と私系乳業が存在し、今後は統合が進むであろうとしている。

単位:千トン

	2014年	2020年(予想)	増加率
飲用乳	14,110	18,920	+34%
ヨーグルト	795	1,935	+143%
粉乳	880	1,175	+34%
UHT 乳 ^{※1}	367	991	+170%
ギー ^{※2}	386	548	+42%
フレーバー乳飲料	235	543	+131%
アイスクリーム	179	337	+88%
ベビーフード	61	87	+43%
パニール(チーズ)	38	87	+129%
チーズ	38	84	+121%
バター	52	66	+27%
ヨーグルト飲料	16	41	+156%
クリーマー(乳ベース) ^{※3}	25	29	+16%

カナダの新乳価クラス7導入に伴う米国への影響

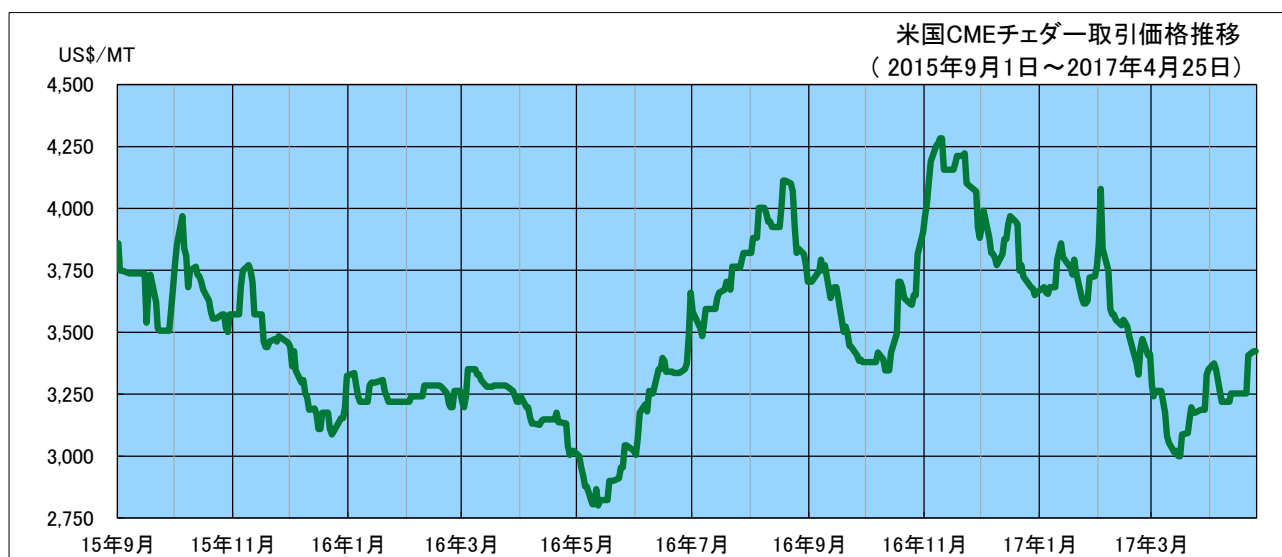
米国にとってカナダは乳製品輸出先として重要な位置を占めている。Agra net 4月20日号によると、1位のメキシコ(約12億USドル)に次いで2番目に取引額の大きい国であり、その額は2016年は約358万USドルであった。

しかし、今年2月にカナダが新たにUF(限外濾過)牛乳向けに最低水準の乳価を導入したことにより、米国の乳業メーカーが打撃を受けている。UF牛乳は生乳を濾過膜で透過させて乳タンパクを濃縮した物であり、主にチーズの原料として使用されているが、当乳価の導入により米国の価格優位性が失われ、一部メーカーは輸出停止に追い込まれている。

国際乳製品協会は、全米生乳生産連盟と米国乳製品輸出協会と共に共同声明を発表しこの新しい乳価政策を止めさせカナダ向け輸出を回復させるよう主張しているが、在米カナダ大使 David Mac Naughton 氏によると、この問題は米国の生乳過剰生産による物とカナダ側は強く反論している。

当政策の継続により、米国内において生乳量が過剰となりその結果乳価が下がり最終製品の価格に影響を及ぼすことも考えられる。

米国CME(シカゴ)相場



2017年4月のCMEスポット相場は4月3日のUSD3,374/MTから開始となった。価格は一時軟調に推移し、4月7日にはUSD3,219/MTまで値を下げたものの、その後価格は堅調に推移し、4月25日にはUSD3,423/MTとなった。

<小林(陽)>

国内情報

減産傾向続く 夏場から年末の生乳、脱脂粉乳不足を不安視

生乳生産

農林水産省が発表した3月の全国生乳生産量は63万4,357トンで前年同月比1.5%減となった。地域別では北海道が33万802トンで1.5%減、都府県は30万3,555トンで1.5%減となっている。

生乳生産が前年割れで推移したことに加え、飲用需要の増加と都府県の減産も重なった影響で、道外移出も前年同月比約25%増と大幅に増加している。例年、学校給食牛乳がストップする春休み期間、道内の乳製品工場はフル生産体制で生乳処理に当たるが、今年は原料乳を十分に確保できないで終わり、年末年始に続きバターや脱脂粉乳等の乳製品在庫を思うように積み増せなかった。

バター

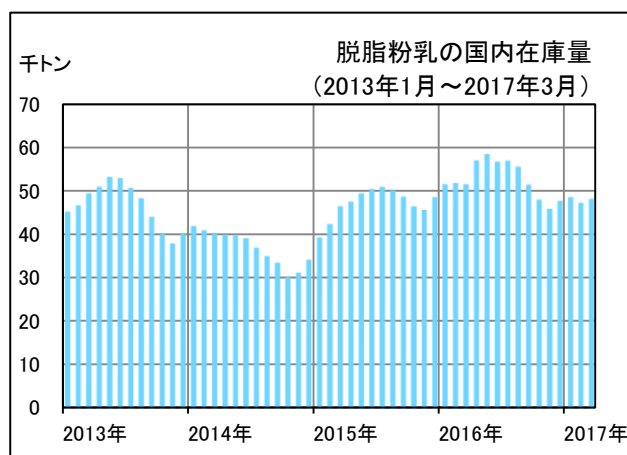
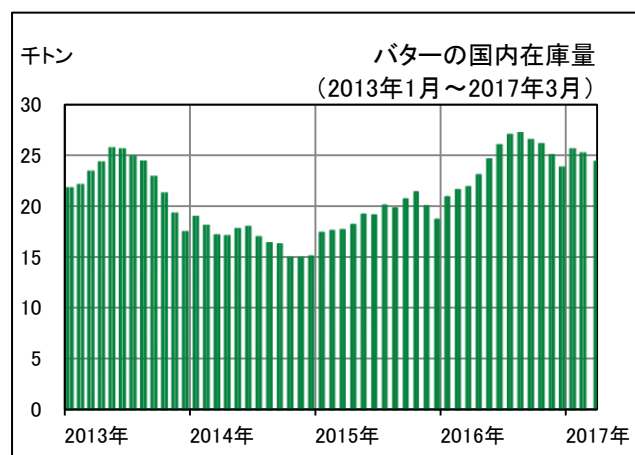
農林水産省が発表した3月のバター生産量は6,082トンで前年同月比11.6%減、在庫量は24,481トンで前年同月比11.0%増となった。国産バターの荷動きの鈍さや輸入バターの増加で、在庫量は前年を大きく上回る高い水準で推移している。農畜産業振興機構は、3~4月もバターの引き合いが弱く、在庫の取り崩しが進みにくいことから、引き続き同様の水準で推移すると予測している。

同機構は4月20日、今年度輸入予定のバター1万3,000トンの内、2,500トンの売買同時入札(SBS)を実施、落札数量は575トンで落札率は23%、売渡落札平均価格¥838,043/kgだった。

生産量の前年割れは3ヶ月連続となった。在庫が潤沢にあることや、同機構の2016年度追加輸入バラバターの不落札分がまだ残っていることなどから、生産を抑える動きもあると見られる。

脱脂粉乳

農林水産省が発表した3月の脱脂粉乳生産量は12,308トンで前年同月比8.2%減、在庫量は48,199トンで前年同月比6.4%減となった。一方、牛乳および発酵乳などの売れ行きは引き続き好調で、今後も在庫量減少の傾向は続く見通し。北海道、都府県ともに生乳生産は回復傾向が見られず、夏から年末にかけての生乳、脱脂粉乳不足が懸念される。



生乳生産量

(単位:千トン)

	生乳生産量	用途別内訳			
		牛乳等向け	乳製品向け		その他
			内業務用		
2017年3月	634	320	26	310	4
前年同月比	98.5%	99.7%	97.9%	97.4%	87.0%

2016年度、バター需給予想

(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	18,335	106.7%	15,740	91.7%	26,145	136.5%	4.2
第2四半期	14,380	97.8%	13,927	84.6%	26,598	127.9%	4.3
第3四半期	13,874	93.8%	24,589	107.5%	23,883	115.4%	3.8
第4四半期	16,995	86.6%	16,397	89.7%	24,481	111.0%	3.9
合計	63,584	95.9%	70,653	94.5%	24,481	111.0%	3.9

*在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

2016年度、脱脂粉乳需給予想

(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	33,574	101.4%	33,290	94.6%	56,763	112.5%	4.8
第2四半期	27,213	95.0%	36,908	106.2%	51,368	105.6%	4.4
第3四半期	29,827	94.9%	35,535	90.9%	47,660	110.8%	4.1
第4四半期	32,887	88.9%	35,348	112.2%	48,199	93.6%	4.1
合計	123,501	94.9%	141,081	100.4%	48,199	93.6%	4.1

*在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

<柿島>

■ アムステルダム駐在員情報

■ Unilever社 マーガリン事業を売却

英蘭合併の食品・洗剤・パーソナルケア商品の大手 Unilever(ユニリーバ)社は、マーガリン事業を売却することを明らかにした。売却想定額は、60億ポンド(約8,400億円)と言われている。長年に亘りユニリーバは飽和脂肪酸を含むバターに対峙して健康遡求でマーガリン事業を拡大してきたが、最近の消費者の味重視の傾向やナチュラル志向、またバターとの価格差が以前より小さくなったことなども影響して、マーガリンの販売に苦戦していた。主力ブランドの一つである Flora の低脂肪品で昨年英国にて行ったリニューアルも不評を買わずに元の製品に戻し多額の損失を残す結果となったという。本年に入ってから、同社ブランドでよく知られたキャッチコピー 'I Can't Believe it's not Butter' を 'I Can't Believe it's so Good ... for Everything' に変えてブランドの再構築を図ろうとしていた。オランダでも100年近くに亘って多くの家庭で親しまれてきたブランドを有していた。

ユニリーバ社は、先般米国の食品大手 Kraft Heinz(クラフト・ハインツ)社からの買収提案を拒否したところであるが、株主にとっての価値の増大を図るために経営方針を根本的に見直すかたちで、上記と同時に利益目標の上方修正、株主配当金の引き上げ等の計画を発表している。

EU脱脂粉乳 介入在庫への持ち込み始動

EU の脱脂粉乳介入在庫は市場への売り渡しが不調のまま本年の本格的なシーズンを迎えようとしているが、需要旺盛なバターとは逆の状況にある脱脂粉乳は、同介入在庫へ持ち込みが可能なことが最低限の下支えとなって市場価格が形成されている。同介入在庫への持ち込みは昨年よりはるかにゆっくりしたペースではあるが、ポーランドの 472 トンを皮切りに下記の通りの状況となっている。

期間	数量	(国別明細)
3月27日～4月2日	472トン	(ポーランド 472トン)
4月3日～9日	729トン	(リトアニア 479トン、ドイツ 250トン)
4月10日～16日	1,468トン	(ドイツ 576トン、リトアニア 540トン、オランダ 352トン)
4月17日～23日	1,011トン	(ドイツ 192トン、リトアニア 467トン、オランダ 352トン)
合計	3,680トン	

Danone - Whitewave Foodsの買収を米当局が承認

フランスの食品大手 Danone(ダノン)社は、4月6日、米オーガニック食品大手 Whitewave Foods(ホワイトウェーブ・フーズ)社の買収計画が米コロンビア特別区連邦地方裁判所から承認されたと発表した。

買収額は、104億ドル(1兆1千4百億円)とされている。ダノンは、昨年7月にホワイトウェーブ・フーズを買収することで合意していた。健康志向の強い顧客向けの商品を拡充する狙いで、ダノンの買収案件としては過去10年で最大規模である。

欧州委員会は、この案件をめぐる乳製品市場の調査を実施。昨年12月には、ベルギーでの粉ミルク事業を手放すことを条件に買収を承認していた。

ホワイトウェーブ・フーズ社は、米国コロラド州デンバーに本社を置き、欧州にも販路を持つ。欧州では、アーモンドミルク、豆乳、ココナッツミルク等の植物性ミルクの Alpro(アルプロ)ブランドで知られている。かつては米乳製品大手ディーン・フーズの事業部門であったが2012年にスピノフして独立、ニューヨーク証券取引所に上場した経緯がある。

<阿部>

メルボルン駐在員情報

WCB社 乳価引き上げ

4月6日、WCB社は2016～17年シーズンの乳価を更に引き上げて、平均AUD5.25/kg MS(乳固形あたり)とすることを発表した。引き上げ後の価格は、2016年7月1日に遡って適用される旨WCB社は説明しており、支払いは2017年3月分と併せて4月中に行わうべきと述べている。これによりWCB社の乳価は、Fonterra豪州社のAUD5.20/kg MSを上回ることになり、ビクトリア(VIC)州の主要乳業会社の中で最も高い乳価となっている。

WCB社の位置するVIC州西部では生乳生産量が前年比7%程度減少しており、他地域同様に集乳確保の競争が激化している。WCB社はより高い乳価を提示することによって競合他社であるMGC社、Fonterra豪州社からの集乳量を奪うことに積極的である。WCB社の今シーズンの集乳量は100万トンに限りなく近づくと予想されている。昨シーズン低水準であった乳製品国際相場は今シーズンの前半である程度回復したものの、粉乳相場は最近急激に下落しており、引き続き不安定な乳製品国際相場を警戒しながら慎重に対応している。

豪州 バター不足

生乳生産量の減少で豪州ではバター不足となっており、バターを使用する食品メーカーにも影響が出ている。豪州の1月のバター生産量は前年同月比26%減少し、今シーズンの累計(7月～翌1月)でも前年同時期比15%減少となっている。豪州でのパック牛乳の売上は12月までのシーズン累計で0.6%減少しているものの、消費者の嗜好に変化が表れつつあり、低脂肪乳、無脂肪乳系の販売は12%減少している代わりに全脂肪乳系は4.6%の増加となっており乳脂肪の需要が高まっている。

NZからのバター輸入量が増加しており、豪州国内のメーカーの中にはバター在庫払底というところもあるようだ。豪州バター相場は前年同時期比約7割も上昇している。豪州国内の主要バター供給者はMGC社とFonterra豪州社であるが、両社とも大手スーパーとの長期契約が残っており、現在高騰中の国際相場よりも安い価格で供給せざるを得ない状況となっている。Fonterra豪州社はNZからバターを輸入しているため豪州内から無理にバターを供給しなくていいが、MGC社は国際相場が上昇している中、国内スーパーへ約束済みの数量を安価に供給する必要があり、現在の国際相場高騰のメリットを享受できない苦しい状況にある。本稿が発信される頃には、Ari Mervis 新社長より同社の再建計画が発表されているはずである。

豪州生乳生産量 ラボバンクの予想

オランダ系農業金融機関ラボバンクは、豪州の今シーズンの生乳生産量の見通しを前年比7%減の890万トンと発表しており、生産量は20年来の低水準となる。豪州全体で昨年からの生乳約64万トンが失われる計算になる。豪州最大の乳業会社であるMGC社の集乳量を、今年度は約80万トン減少と予想しているが、その通りであればMGC社は豪州全体の減少数量より16万トンも多く生乳生産を失うことになる。一方で、ラボバンクは来年度2017～18年度の豪州生乳生産量は35万トン増加すると予想している。加えて、ラボバンクは世界的な乳製品価格の回復は既にピークを過ぎた公算が大きいとして、今後乳製品相場は下落すると予想している。

<松本>

米国駐在員情報

3月の生乳生産量

米国農務省(USDA)の発表によると3月の主要23州の生乳生産量は7,945千トンで前年同月比1.8%増となった。先月発表の2月の生乳生産量は前年同月比1.2%減の7,082,400トンに下方修正されたが、うるう年修正後の数字では依然として前年同月を2.3%上回っている。

主要23州における3月の一頭当たりの平均搾乳量は約913キロで前年同月を約8キロ上回っている。また、主要23州における3月の平均乳牛頭数は871万頭と発表され、前年同月比72千頭、前月比では15千頭の増加となっている。

2017年第1四半期の全米生乳生産量

2017年1月～3月累計の全米生乳生産量は24,289千トンで前年同期比1.0%増となった。同時期における全米平均乳牛頭数は937万頭と発表され、これは前期(2016年10月～12月)比2万5千頭、前年同期比では5万7千頭の増加となっている。

2017年3月主要州別生乳生産量(前年同月比)

カリフォルニア州	1,589,454 トン	-2.9%	(-47,216 トン)
ウィスコンシン州	1,179,492 トン	+1.5%	(+17,252 トン)
ニューヨーク州	581,574 トン	+3.6%	(+19,976 トン)
アイダホ州	551,156 トン	-1.0%	(-5,448 トン)
テキサス州	483,510 トン	+16.4%	(+68,100 トン)
ミシガン州	434,024 トン	+3.5%	(+14,528 トン)
ペンシルバニア州	438,564 トン	+3.0%	(+12,712 トン)
ミネソタ州	385,446 トン	+1.9%	(+7,264 トン)
ニューメキシコ州	329,604 トン	+9.0%	(+27,240 トン)
ワシントン州	251,062 トン	-3.3%	(-8,626 トン)

2月の米国産チーズ、脱脂粉乳の輸出量

2月の米国産チーズの輸出量は25,696トンで前年同月比12%増(うるう年修正後)、前月比29%増(日平均ベース)となった。モザレラに代表されるフレッシュチーズの輸出量は8,671トンで前年同月比22%増となったが、韓国、中国向けの輸出が伸びたことが寄与している。一方で、メキシコ向けは前年同月比49.5%減と大きく数量を減らしている。チェダーチーズの輸出量もフレッシュチーズ同様に増加し、前年同月比14%近いアップとなった。

NONFAT DRY MILK (NDM)とSMPの合計輸出量は52,028トンで前年同月比30.6%増(うるう年修正後)となり、前月比でも20.6%増(日平均ベース)となった。2月単月の数字(日平均ベース)としては2015年5月以降で最も多い輸出量となっている。メキシコ向け輸出に関しては、大方の減少予想に反し2月の輸出量は25,538トンで前年同月比38%増となった。全般に2月の米国産乳製品の輸出は予想以上の好調な結果となったが、全米の生乳生産量は引き続き伸びており、今後も輸出が生乳生産の伸びに対し鈍化するようであれば需給バランスと価格の調整局面を迎えることも考えられる。

2月のバター、チーズ、NDM/SMPの生産量

USDA発表のレポートによると2月のチーズ生産量は427,668トンで前年同月比2.1%増(うるう年修正後)となった。そのうちチェダーチーズの生産量は124,850トンで前年同月比10.7%増であるが、代わりにモザレラの製造量は1.7%減の175,064トンとなった。ロッキー山脈以東の酪農地帯においては引き続きチーズ生産がフル生産体制で行われており、春先の乳量の急増と相俟って更なる国内チーズ在庫の積み増しも予想される。NDMとSMPの合計の生産量は81,720トンで前年同月比33.4%増(うるう年修正後)となり、過去5年間の平均をわずかに上回る水準となっている。中部における生産量の増加(前年同月比20.6%増)が西部の減少を相殺している。主要なバター生産地域である西部における生産量の減少はバター生産にも影響を与えており、2月の全米バター生産量は74,456トンで前年同月比2.4%減となったが、生乳生産のピークを迎えるのはまだ先であることから、引き続きバター、チーズ、脱脂粉乳の在庫の積み増しが行われるものと予想される。

2月のホエイパウダー、WPC、WPIの生産量、輸出量、在庫量

2016年6月初旬頃より米国のホエイ加工メーカーはより高タンパクの製品の製造にシフトしており、ホエイパウダーの生産量が前年同月を上回った月は10月と2月のみとなっている。2月のホエイパウダー(食用)の生産量は6.8%増(うるう年修正後)となった。ホエイパウダーと同様WPCも前年同月比3.4%増、WPIについては27.3%増と大きく増えており、この事がホエイパウダーの在庫数量の減少、価格上昇の背景となっている。ホエイ製品の輸出は総じて前年同月を上回っており、2月のホエイパウダーの輸出量は15.6%増、WPCに関しては40%近い増加となっており、主な輸出先はアジアと南米。一方で国内の在庫量に関してはやや余剰感が出てきている。ホエイパウダー(食用)

の在庫量は前年同月比 9.1%減となっているものの、前月比では 926 トン増加している。WPC の在庫量は前年同月、前月をいずれも若干下回っているが、WPI に関しては前年同月比 48.2%増と大幅に増加している。

<佐藤>

■ 主要生産国の現行乳価

	円換算乳価 ^{※1}	直近の乳価	
日本	¥96.32/㍓	¥93.43/kg ^{※2}	(2017年2月)
ドイツ	¥38.88/㍓	EUR33.97/100kg	(2017年2月)
アイルランド	¥44.22/㍓	EUR35.45/100kg	(2017年1月)
オランダ	¥43.66/㍓	EUR35.00/100kg	(2017年2月)
米国	¥50.88/㍓	USD18.50/100ポンド (100ポンド=45.359kg)	(2017年2月)
豪州	¥31.77/㍓	AUD4.95/kg MS(乳固形あたり)	(2016/17年度)
NZ	¥35.72/㍓	NZD6.00/kg MS(乳固形あたり)	(2016/17年度)

※1 生乳 1 リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は 1.031 で計算。
為替レート: EUR=¥111.00 / USD=¥121.00 / AUD=83.00 / NZD=77.00

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

<出典>

日本 : 農畜産業振興機構

EU : European Commission

米国 : CLAL

豪州 : Murray Goulburn HP

NZ : Fonterra HP

お問い合わせ先:
株式会社ラクト・ジャパン
webmaster@lacto-japan.com

出典:

- AGRA EUROPE 各誌
- Dairy Dairy Report
- Dairy Industry Newsletter
- 農畜産業振興機構“畜産の情報”
- AMS Dairy Market News
- 日刊酪農乳業速報
- Rice Dairy
- NZ Herald
- Stuff.co.nz
- 食品産業網
- Weeklytimes
- USDEC Export Trade Data
- Global Trade Information Service
- USDA's Dairy Market News
- Australian Financial Review
- 食品産業サイト
- 経済日報
- 東方ネット
- 長三角乳業

ディスクレーマー

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当社は、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。
2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。
3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。